

インフォメーション

# 全農オリジナルブランド ミニトマト「アンジェレ」の取り組み ～生産から販売まで全農の機能をフル活用～

全農の園芸事業では「全農グループ直販機能の強化と実需者ニーズに基づく園芸振興」として、品種の選定から販売まで手がけることにより、国産農産物の販売強化と農家手取り最大化をめざしている。この一環として、ミニトマト「アンジェレ（写真－1～3）」について、種子の供給から販売まで一貫した取り組みを行っている。ここでは、その全農オリジナルブランド「アンジェレ」を紹介する。



写真－1  
パッケージをはじめ販売形態にも工夫を凝らす



写真－2  
「アンジェレ」の果房



写真－3  
収穫直後の「アンジェレ」（ヘタなしで収穫）

## 契約したJAの生産者のみが栽培できる

「アンジェレ」は「甘みが強く、糖酸比が安定して高い」「美味しさがあとをひく」「気軽につまめて食べやすい」「歯ごたえがしっかりしていて、旨みが凝縮されている」「リコピン、フラボノイドが多く含まれる」など実に多くの特長を持っている。特に、糖度が高くゼリー質が少ないことは、消費者に対して売り込みやすい商品特性であり、「トマト嫌いの子どもが積極的に食べた」など、好意的な感想をいただいている。

作付けは、すべて契約栽培となっている。全農では「アンジェレ」のブランド確立を進めるため、新規導入にあたっては、産地・生産者の適性を判断したうえで、全農と県域、JAで『ミニトマト「アンジェレ」の生産、販売に関する基本契約書』を交わし、栽培を開始するようにしている。種子は、全農が種苗会社と独占契約を締結しているため一般に販売されておらず、契約のなかで譲渡も禁じているため、契約したJAの生産者にのみ栽培が許されている。

## 全国統一規格でA品のみが出荷される

「アンジェレ」は、全農オリジナルブランドとして、全国統一規格の等級表（表－1）に基づき各産地で選果を行う。等級A品のみが「アンジェレ」として出荷され、契約価格での販売を全農の園芸直販機能を担うJA全農青果センター（以下、青果センター）が一元的に行う。青果センターが一元的に取扱うことで、全国の産地情勢や販売情報を一括把握することが可能となる。主

表－1 「アンジェレ」等級表（全国統一規格）

等級	階級	1果の重量目安	選別基準
A	L	21g以上	1.入り目5%とする 2.カラーチャート#8～9の着色程度 3.糖度8度以上を目安とする 4.玉の汚れはきれいに拭き取る 5.品種固有の形状、光沢を有するもの
	M	8g以上21g未満	
	S	5g以上8g未満	
B	L～S	5g以上	糖度は8度未満、軽微な環状裂果、変形果（ひょうたん型）、軽微なグリーンバック、軽度のスレ果、花落ちあと果

出荷できないもの：裂果、裂皮、傷み果、腐敗果、未熟果、病害虫被害果、しわ果、著しいグリーンバック果、著しい変形果

■ A品を「アンジェレ」と呼ぶ

な販売先は、大手量販店や生協など、青果センターにおける既存の取引先が中心となっているほか、中食および外食事業者への営業提案を行い、幅広い需要の開拓をめざしている。

## 営農・技術センターによるサポート

「アンジェレ」の普及にあたり、栽培技術の側面から全農 営農・技術センター（神奈川県平塚市）がサポートしている。トマトは、茎葉の伸長（栄養生長）と開花・着果（生殖生長）が同時に進行する作物である。栄養生長と生殖生長のバランスを見ながら適正な草勢を維持し（図-1）、長期間安定的に収穫を続けることが、高収量・高品質につながる。

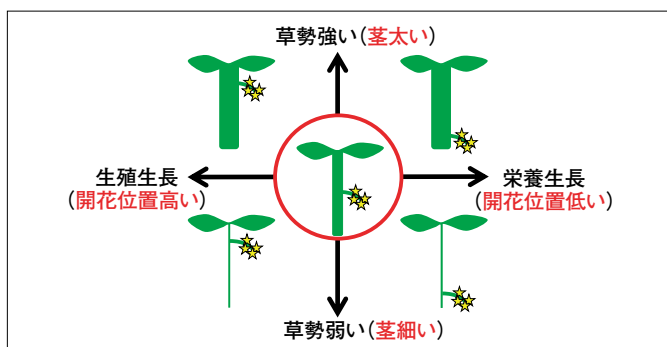


図-1 トマトの生育診断

しかし、経験豊富な生産者でもそれは簡単なことではない。特に、海外で育成され、既存の国産品種とは性質が異なる「アンジェレ」は、慣行のかん水管理や温度管理では品種の特性を十分に発揮できない。そのため、営農・技術センターは、茎の伸長量、茎径、生長点から開花花房までの長さを毎週測定し、それを図式化してトマトの生育状況を把握することを生産者に提案している。JAや地域の担当者は、現地でこれらを測定して営農・技術センターに報告すれば、アドバイスを受けることができる。

実際に現地を訪ねて、生産者に助言することも重要な業務である。「アンジェレ」の産地は青森から熊本まで広範囲にわたっている。JAや地域からの要望に応じて3名のスタッフが各地を飛び回っているが、繁忙時には人手が足りない状態である。

## 技術の核「全農トマトランド」開設

営農・技術センターは平成28年4月、千葉大学柏の葉キャンパス内に「全農トマトランド」を開設した（写真-4）。ここでは全農が開発したトロ箱養液栽培システム「ういずOne」を用いて「アンジェレ」を栽培しており、技術向上のための検討をしている。技術研鑽のために「アンジェレ」生産者が訪ねてくることもあり、これまでに冬春作の最大産地である熊本県のJAや、夏秋作



写真-4 「全農トマトランド」では「ういずOne」を用いて「アンジェレ」を栽培している



写真-5 熊本での「アンジェレ」栽培状況

を担う東北・北陸・中国地方の各JAからの視察を受け入れた。また、昨年は県域担当者を集めた「アンジェレブランド確立会議」がここで開かれた。このように、「全農トマトランド」は「アンジェレ」の普及拡大をめざした技術の核としての機能を果たしている。

現在「全農トマトランド」では、「アンジェレ」にトマト黄化葉巻病と葉かび病の抵抗性を付与した改良版「アンジェレ」の試験栽培を行っている。いずれも発生すれば生育が阻害され、大きな減収につながる厄介な病気である。これまでの試験を通じて、この改良版「アンジェレ」が十分な抵抗性を持つとともに、食味がこれまでの「アンジェレ」と遜色がないことが確認できた。今後は、トマト黄化葉巻病が猛威を振るう熊本を中心に、普及を図っていく予定である。



「アンジェレ」の取り組みは、「農家手取り最大化」をめざして、生産から販売まで全農の機能をフルに活用した事業であり、全農ならではのものと自負している。事業開始から全国的に「アンジェレ」の作付面積は拡大してきたが、これからも大規模農業法人の取り込みや産地大型化による物流面・販売面での課題をクリアし、ブランド確立につなげていく。今後は「アンジェレ」の経験を活かし、新たなトマト品種や野菜品種にも取り組んでいく予定である。

【全農 園芸部/耕種総合対策部】